



豊かな時刻を

「挑戦」「創造」「貢献」「誇り」

中沢中学校 学校だより
令和8年度 第3号
令和8年6月26日

修学旅行 平和と歴史を学んだ3日間



校長 山田 裕康

5月26日から28日に3年生が広島・京都への修学旅行を実施しました。1日目は広島へ向かい、平和記念公園での平和学習に取り組みました。まずはピースボランティアの方と共に班ごとに公園内の原爆ドーム、原爆の子の像などの慰霊碑・記念碑を見学して回りました。ボランティアの方のていねいかつ、平和への思いを込めた説明に、生徒たちは真剣に聞き入っていました。

その後は被爆された方の講演を聞きました。昨年の3年生も話を聞いた内藤慎吾さんが講演をしてくださいました。6歳で被爆し、家族を亡くされた体験は、聞かたびに当時の方々の悲惨な姿や原爆の実相が深く心に刻まれる思いがします。そんな内藤さんも、長い間被爆体験を語ることは避けていたのだそうです。つらい体験を語ることはなかなかできなかったそうです。自身が歳を重ね、被爆者が少なくなっている現状から、勇気を出し、令和4年から講演活動をされているのです。

原爆投下から80年が経ち、被爆者の高齢化が進む中、次の世代への被爆体験の継承がますます困難な時期に差し掛かっていること、今後、確実に到来する「被爆者がいなくなる時代」を見据え、被爆者の言葉や平和への思いをしっかりと次世代に引き継いでいくことを重視した広島市は、新たな被爆体験継承の手法として、AIやVR(仮想現実)などのデジタル技術を活用し、被爆者の言葉や平和への思いを後世に伝える取組を進めています。その一環として、5人の被爆体験証言者の協力で、「被爆証言応答装置」を製作したそうです。あらかじめ予想される質問に対して回答する映像を録画しておき、質問者の問いかけにAIが判断し、実際にその場で答えているかのような体験ができるそうです。内藤さんもその一人として作成に参加し、協力しているのです。

今回の旅行でも、たくさんの外国からの来訪者が見られました。平和記念資料館では、外国語の説明が用意されており、はじめてみる人には衝撃を与えるような写真や展示に熱心に見入る姿から、平和を願う思いは万国共通であると改めて感じさせられました。

2日目は京都へ移動し、自分たちで決めたコースで市内を巡りました。最終日はボランティアガイドの方とともに見学をしていきました。ゆく先々で説明を聞いたり、話をしたりしながら古都の歴史を学び、楽しいひと時を一緒に過ごせたことは、これからの生活につながる成果を挙げられたと思います。2学期の翠城祭、そして進路の決定へと3年生として与えられた使命の達成に向かっていってほしいです。



学校評議員会を開催しました



6月19日(金)に今年度の第1回学校評議員会を開催しました。地域から4名の方を推薦させていただき、本年度の学校経営について説明いたしました。また、生徒の様子などをご質問を頂きながら、生徒、保護者、地域にとってより良い学校のあり方にむけてご意見をいただきました。1年間、学校を温かく見守ってくださいますよう、どうぞよろしくお願い致します。